

# 家 庭

## 1 教育課程研究協議会の経過（平成11年度～14年度）

高等学校における普通教科「家庭」の新しい教育課程の編成・実施に向け、平成11年度から「高等学校新教育課程編成の手引」を作成・配付するとともに、教育課程研究協議会を開催し、手引や資料を用いて学習指導要領改訂の趣旨や指導計画等についての説明や協議を行ってきた。

平成11年度からの手引及び説明の概要は次のとおりである。

	手 引 の 概 要	説 明 及 び 協 議 の 概 要
平成11年度	1 科目編成 2 改訂の基本方針 3 改善の内容 (1) 目標 (2) 各科目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・普通教科の改善の要点について</li> <li>・普通教科の目標について</li> <li>・「家庭基礎」、「家庭総合」、「生活技術」の目標と内容の構成について</li> <li>・各科目の内容取り扱いについて</li> </ul>
12年度	1 全般的事項 2 具体的事項 （質疑応答形式で記述）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中高の教科の関連について</li> <li>・「家庭基礎」、「家庭総合」、「生活技術」の目標と内容について</li> <li>・ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動について</li> </ul>
13年度	1 家庭科の教育課程の編成 2 指導計画と内容の取扱い 3 指導計画の作成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育課程編成の基本的考え方や配慮すべき事項について</li> <li>・指導計画作成上の留意点について</li> <li>・科目「家庭総合」の指導計画について</li> </ul>
14年度	1 家庭科の学習指導の改善 2 評価の工夫 3 学習指導案の作成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導の改善の視点、学習指導の工夫や改善について</li> <li>・評価の基本的な考え方や方法、評価の観点と観点の趣旨について</li> <li>・学習指導案「青年期の課題」の評価の観点や評価方法等について</li> </ul>

## 2 学習指導の改善・充実

### (1) 個に応じた指導の工夫

家庭生活を主体的に営むために必要な基礎的・基本的な知識や技術の確実な定着を図り、個性を生かす教育を充実させるためには、個に応じた指導の工夫が求められている。このため、生徒の学習状況や興味・関心等を踏まえて、専門教科「家庭」(p101)に示すように、学習方法や指導体制等を工夫し、指導内容のまとめ方や指導の順序などに配慮することが大切である。

## (2) 指導と評価の工夫・改善

### ア 評価計画の作成

各学校においては、評価計画を含めた指導計画を立てることが大切である。その際、毎時間の授業で4つの観点すべてを評価する必要はなく、単元（あるいは学習内容のまとまり）ごとまたは学期ごとの評価の中に、4つの観点が含まれていればよい。

専門教科「家庭」(p102)の表1「幼児と遊ぼう」の評価については、普通教科「家庭」における保育実習の評価の項目や評価の観点等の例でもある。

### イ 実習による評価の工夫

実習において、ワークシート等を提出させる場合には、それらの提出物をもとに振り返ることを生徒に意識させるとともに、必要なら教師が提出物に助言や感想を書き込むことによって生徒に振り返りを行わせるよう工夫する。

### ウ 学習内容の理解や習熟の程度に応じた指導

学習内容を身に付けている生徒に対して、内容の理解をより深める学習を行ったり、さらに進んだ内容についての学習を行ったりする発展的な学習を実施することが求められる。また、内容の理解が必ずしも十分でない生徒に対しては、補充的な指導を実施することが求められており、専門教科「家庭」(P102)の表2にその例を示した。

## (3) 科目「家庭総合」のシラバス (例)

教科名	家庭	科目名	家庭総合
科目の目標	人の一生と家族、子どもの発達と保育、高齢者の生活と福祉、衣食住、消費生活などに関する知識と技術を総合的に習得させ、生活課題を主体的に解決するとともに、家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。		
履修学年	1・2学年	学科・コース	〇〇〇
単位数	各学年2単位 計4単位	授業形態	個別学習、グループ学習等
教科書	〇〇〇	副教材等	〇〇〇
<b>1 学習の目標</b>			
(1) 人の一生と家族、子どもの発達と保育、高齢者の生活と保育、高齢者の生活と福祉、衣食住、消費生活等について関心をもち、その充実向上を目指して意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けます。			
(2) 生活課題を主体的に解決するために思考を深め、適切に判断する能力を身に付けます。			
(3) 生活に関する基礎的・基本的な知識を総合的に身に付けます。			
(4) 生活に関する基礎的・基本的な技術を総合的に身に付けます。			
<b>2 学習内容と進め方</b>			
上の目標を達成するため、2年間にわたって次のように学習します。			
(1) 人の一生と家族、地域とのかかわり、子どもの発達と保育、高齢者の生活と福祉、衣食住、消費生活と資源・環境等を学びます。			
(2) 調査・研究・観察等の実験・実習を中心に進めます。			
(3) 幼稚園(保育所)等の乳幼児や小学校の低学年の児童、身近な高齢者との交流体験をします。また、福祉施設等の見学やボランティア活動への参加などの体験も行います。			
(4) ホームプロジェクト学習や学校家庭クラブ活動では、生活や地域の中から見いだした課題について、解決方法を考え、解決のために実践します。			
<b>3 学習の留意点</b>			
(1) 学習したことを生活と結び付けて考えて、生活をよりよくしようとする意欲と態度が大切です。			
(2) 無意識にかかわっている日常生活に関心や課題意識をもち、生活の根底にある原理・原則について科学的に理解し、課題を解決することが大切です。			
(3) 授業で行う実習だけでは生活に関する技術は身に付きづらいので、授業で学習したことを家庭でも繰り返し実践していただくことが大切です。			
(4) 家庭生活と社会とのかかわりを理解するために、新聞等のニュースに関心を持つことが大切です。			
<b>4 評価の方法</b>			
(1) 評価の観点			
① 家庭や地域の生活についての関心、学習に対する意欲的な取り組み、生活での実践的な態度が身に付いたか。			
② 家庭や地域の生活についての課題を主体的に解決するために考え、工夫し創造する力が身に付いたか。			
③ 家庭や地域の生活を営むために必要な基礎的、基本的な技術が身に付いたか。			
④ 家庭生活に関する基礎的・基本的な知識が総合的に身に付いたか。			
(2) 評価の方法			
授業態度、各種提出物の状況、被服製作、調理の実技テスト、実習記録、小テスト、定期考査、自己評価等			

5 授業計画		1年次(2単位)		
月	単元	具体的な学習内容	評価の観点	評価の方法
4	オリエンテーション ・1年間の学習内容 ・ホームプロジェクトと学校 家庭クラブ活動	・1年間の学習内容や家庭科の特色であるホームプロジェクト(学校家庭クラブ活動)を理解します。		
5	人の一生と家族・家庭 ～生活や人生を見つめて～ ・青年期の特徴とライフステージ ・家庭と社会とのかかわり ・家族や家庭を支える労働	・乳幼児期から老年期までの各ライフステージの特徴を理解し、青年期の在り方を考えます。 ・現代の家族の特徴や家庭の機能について、家族関係や社会とのかかわりで理解します。 ・職業労働と家事労働について、現状と問題等を理解します。 ・家族に関する法律等の基礎的な知識を理解します。 ・社会保障制度や社会福祉等について理解します。	【関心・意欲・態度】 ・家庭と社会、生活設計等に関心をもてたか。 【思考・判断】 ・家庭や青年期の課題を見付け、その解決を目指して考えることができたか。 【技能・表現】 ・家庭の在り方や生活設計等に必要な基礎的な技術が身に付いたか。	・ワークシート ・ディベート ・定期考査 ・ノート ・調べ学習ノート
6	・家庭生活と法律 ・家庭生活と福祉		【知識・理解】 ・生活の在り方を考えるための基礎的・基本的な知識を理解したか。	
	子どもの発達と保育・福祉 ～子どもための保育環境～ ・親の役割と保育 ・子どもの発達と生活 ・子どもの福祉	・誕生前の母体の健康管理の必要性や子どもを健やかに育てるための親の役割や保育の意義等理解します。 ・乳幼児の心身の発達を理解し、子育てに必要な基礎的な知識や遊びの重要性を理解します。 ・子どもを取り巻く環境の変化や問題に気付き、望ましい児童福祉の在り方を考えます。	【関心・意欲・態度】 ・子どもの健全な発達と環境とのかかわりに関心をもてたか。 【思考・判断】 ・家庭等の子育ての課題解決を目指して考えることができたか。 【技能・表現】 ・子どもの発達を支援するための基礎的な技術が身に付いたか。 【知識・理解】 ・子どもの発達を支援するための基礎的な知識を理解したか。	
夏休み	体験的な学習活動 ～交流体験～ (学校家庭クラブ活動)	・幼児や高齢者などと楽しく交流するためにできることを考え、実践します。	【関心・意欲・態度】 ・幼児や高齢者などと積極的にかかわることができたか。	・感想文 ・交流への取り組み状況
8	高齢者の生活と福祉 ～豊かな老後の在り方～ ・高齢社会の現状と課題	・身近な問題として、高齢社会の現状と課題を理解します。	【関心・意欲・態度】 ・高齢者の福祉や介護等に関心をもてたか。 【思考・判断】 ・家族や社会等の果たす役割について考えることができたか。 【技能・表現】 ・高齢者と適切にかかわり、生活を支えるための基本的な技術が身に付いたか。 【知識・理解】 ・生活や介護等について基礎的な知識を理解したか。	・ノート ・ワークシート ・定期考査 ・作文 ・感想文 ・グループ内発表 ・調べ学習ノート ・介護実習
9	・高齢者の心身の特徴と生活上の課題 ・高齢者の福祉	・加齢に伴う高齢者の心身の特徴と生活上の問題を具体的に理解します。 ・高齢者福祉の基本理念や福祉サービスについて理解し、適切な在り方を考えます。 ・高齢者の自立支援の大切さを理解し、基礎的な介護技術を身に付けます。		
10	・高齢者介護の基礎技術と要素			
	生活の科学と文化 ～快適な住まい～ ・住居の機能 ・住環境と地域社会 ・住空間の計画	・家族が快適に住むために、住居の機能や健康的な室内環境を理解します。 ・近隣との快適な住まい方や人々が安心して住める住環境について考えます。 ・ライフステージや生活行為等に配慮した住空間を設計します。	【関心・意欲・態度】 ・住生活の科学等に関心をもてたか。 【思考・判断】 ・住環境等の課題解決を目指して考えることができたか。 【技能・表現】 ・住居を整える技術が身に付いたか。 【知識・理解】 ・住生活を営むための基礎的な知識を理解したか。	・ビデオ視聴感想文 ・ノート ・ワークシート ・定期考査レポート
	～健康と自分らしさを大切に した被服(理論編)～ ・被服の機能と着装 ・被服材料 ・被服の管理と環境問題	・被服の機能と着目的、個性等を考慮し適切な着装を考えます。 ・被服の機能や健康に配慮した衣生活を営むために、被服材料を科学的に理解します。 ・資源や環境保全に配慮した被服の購入や被服管理等ができるよう実践的な態度を身に付けます。	【関心・意欲・態度】 ・衣生活の科学等に関心をもてたか。 【思考・判断】 ・衣生活の課題解決を目指して考えることができたか。 【技能・表現】 ・被服管理の技術が身に付いたか。 【知識・理解】 ・衣生活を営むための基礎的な知識を理解したか。	
12				
1				
2				
3	1年間のまとめ ～生活を見つめて～ ・ホームプロジェクトに向けて	・1年間の家庭科の学習を活用して、日常生活を見つめ、生活上の課題を発見し、発表します。	【思考・判断】 ・生活の中から課題を見付け、解決に向けて考えることができたか。	・ワークシート ・発表会(家庭クラブ活動)

		2年次(2単位)		
月	単元	具体的な学習内容	評価の観点	評価の方法
4	オリエンテーション	・1年間の学習内容や学習方法を理解します。		
5	生活の科学と文化(1学年の続き) ～健康と自分らしさを大切に した被服(実習編)～ ・はんでんの製作	・「はんでん」の製作を通して、被服製作の基礎的な技術を身に付けます。	【技能・表現】 ・縫製の基礎技術を身に付け、体格やデザインにあった「はんでん」を製作できたか。	・作品 ・製作の記録
6	～健康や成長のための食生活 の実践～ ・食生活の変遷	・現代の食生活の問題、食文化や食生活の知恵等を理解します。	【関心・意欲・態度】 ・食生活における健康、安全、環境問題等、食文化に関心をもてたか。	・調べ学習(食文化、食生活の問題等)
7	・食品の栄養と栄養の摂取 ・安全な食生活	・栄養と食品の摂取、栄養バランスのよい食事等を理解します。 ・食中毒や輸入食品の問題等から安全な食生活について理解し、実践する態度を身に付けます。	【思考・判断】 ・家族の栄養摂取、食品等の課題を見付け、その解決を目指して考えることができたか。	・ビデオ視聴のまとめ ・定期考査 ・調理実技試験
8	・調理実習(基礎) 1回目 ピザ 紅茶 2回目 ちらしずし 茶碗蒸し	・日常食の実習を通して、調理の基礎的な技術を身に付けます。	【技能・表現】 ・食生活を向上するための必要な調理基礎技術やマナー、環境に配慮した食管理等の基礎的・基本的な技術が身に付いたか。	・調理実習ノート
9	・献立作成 ・調理実習(応用) 4回目 弁当の献立 5回目 行事食の献立 ・食生活と環境問題	・1日分の献立作成ができる。 ・目的に応じた献立を立て、調理実習ができる。 ・エコクッキングを実践できる。	【知識・理解】 ・栄養、食品、調理等について、科学的に理解し、食生活を営むために必要な基礎的・基本的な知識を身に付けたか。	
10	消費生活と資源・環境 ～自立した消費者～ ・家庭の経済生活	・経済社会の変化に伴う家庭経済と国民経済のかかわりについて理解します。	【関心・意欲・態度】 ・消費者の権利と責任、消費行動と資源・環境等の関心をもてたか。	・定期考査
11	・家計管理と経済計画 ・ライフステージと経済計画	・家庭の収入や支出等の管理の適切な方法について理解します。 ・各ライフステージの特徴と経費のかかわりを考え、経済計画の必要性を理解します。	【思考・判断】 ・家庭経済や国民経済のかかわり、消費生活の課題等を見付け、その解決のために考えることができたか。	・ノート ・ロールプレイ ・ワークシート ・パソコンでの情報収集実習
12	・消費者の権利と責任 ・消費行動と資源や環境とのかかわり	・消費者問題に関する消費者の権利を理解するとともに、消費者の責任を自覚して、適切な消費行動を考えます。 ・消費者として、環境負荷の少ない生活の仕方を理解し、実践します。(家庭クラブ活動の実践)	【技能・表現】 ・自立した消費者として責任をもって行動するための基礎的・基本的な技術が身に付けたか。 【知識・理解】 ・適切な意思決定に基づいて、責任をもって行動するための基礎的・基本的な知識を理解したか。	
1	将来への展望(生活設計) ～自分らしく生きる～	・5年後、10年後、20年後の自分の生き方を考えます。	【思考・判断】 ・将来を様々な状況を想定しながら、生活設計ができたか。	・ワークシート ・定期考査
2	2年間の学習のまとめ ～生活の向上をめざして～	・各自が見つけた生活上の課題を解決するために、ホームプロジェクトを実践します。	【関心・意欲・態度】 ・ホームプロジェクトを意欲的に取り組んだか。	・発表会(家庭クラブ活動)
3	・学習のまとめ	・ホームプロジェクトの成果を発表します。 ・他の生徒のホームプロジェクトの発表を視聴し、多くの生活上の課題とその解決方法を理解します。	【思考・判断】 ・課題解決に向けて考え、適切に判断することができたか。 【技能・表現】 ・目標を明確にし、計画を立て実践できたか。 【知識・理解】 ・ホームプロジェクトの意義を実践方法を理解したか。	・ホームプロジェクト実施記録 ・自己評価 ・相互評価 ・感想文